

精神障害者対象のホームヘルプの これからのあり方

特定非営利活動法人 茨城県精神障害地域ケア研究会
〒310-0912 茨城県水戸市見川 1-1183-2

助成事業の概要

精神障害者への地域支援として、「地域で共に生き、老い、死に行く」生活に関わるホームヘルプのあり方をテーマに、利用する側・提供する側・計画する側の具体的連携を作り出す研修会を開催する。

1. ホームヘルパーを利用する精神障害者を対象とする検討会：2018年7月開催

水戸市内の地域活動支援センターに登録している精神障害者を対象に、「ホームヘルパーとは何か」の確認や、利用状況や具体的問題点等についての意見交換を行う。

2. ホームヘルパー事業所を対象とする検討会：2018年9月開催

地域活動支援センターI型事業委託市町村内のホームヘルパー事業所に協力を働きかけ、当会作成の「精神障害者対応ホームヘルパーマニュアル」の批判的検討や、精神障害者への対応状況と問題点についての意見交換を行う。

3. 相談支援専門員を対象とする研修会：2018年12月開催

県内の相談支援事業所等を対象に、「ホームヘルパーを利用する精神障害者の状況」や「居宅介護事業の抱える課題」についてのワークショップ、相談支援専門員によるパネルディスカッションを行う。

事業の成果

*ホームヘルパーの専門性を考える

相談支援専門員やホームヘルパー事業所関係者などを対象に、「知られざる相談支援専門員の現実—精神障害者に対するホームヘルプをとおして—」をテーマに、初めて茨城県内において、研修会を企画・開催できた。

研修会では、精神障害者に対するホームヘルプは、高齢者や他の障害者に比べて、身体介護よりも家事援助が中心であり、利用者との関係性づくりが大変な割には「お金にならない」という現状をどのように変えていくかという課題が明確になった。この課題への対処は、気づいた時には多くの居宅介護事業所が「精神障害者に対するホームヘルプ」を敬遠していた、という事態を招かないためにも、急いで取りかかる必要がある。また、計画どおりに動かない現場は、「やる気がでない・いつのまにか全てをヘルパーにやってもらう状態となった精神障害者に働きかけるのは誰なのか」「家事よりも話し相手としてヘルパーを必要とする時、その時のヘルパーの専門性は何を基盤とするのか」といった問題を抱えたままに進み、その結果、「ヘルパーはなんでもしてくれる人化」が起きている状況も確認できた。

*「精神障害者対応ホームヘルパーマニュアル」の批判的検討の結果

2002年作成のマニュアルについて、現場関係者より、以下のような指摘を受けることができた。
・ヘルパーの多くは、精神障害者が地域で生き辛い時代から、ホームヘルプに携わってきた人であるが、現場で精神障害者と接した経験が少なく、その知識が不足している。例えば、服薬を拒むような事態に「薬減ってよかったね」と単純に言っ

てしまいがち。マニュアルは研修で使いたい。
・ホームヘルプを利用する障害者の中で、精神障害者の割合はそれほど多くない。精神障害者は身体介護や家事援助よりもコミュニケーションを求める傾向が強く、ホームヘルプと結びつき難い。
マニュアル検討結果：マニュアルは、バッグに入れやすい A5 版サイズにし、事例を入れる、Q&A スタイル等を加える等、現場の中で使い易くする必要がある。

成果の広報、公表

① 本助成事業の成果については、共催団体である社会福祉法人光風会で発行している季刊誌「花信風」に研修会報告を掲載し、茨城県内の障害者関係事業所や県・市町村などの障害者福祉行政機関に送付した。

② 当研究会の 2019 年度研究活動として、日本社会福祉弘済会 2018 年度助成事業の報告書をテキストとして活用し、県内のホームヘルパーを対象に精神障害者に対するホームヘルプ研修会を企画・開催する。

この研修会では、当会の成果物「精神障害者ホームヘルプマニュアル」を併用して、精神障害者に対する社会的偏見や差別に関する具体的な事例を踏まえ、支援する側の個々の関わりの点検を行う。

今後の展開

*ヘルパー研修は必須

現場の忙しさで課題への気づきが難しくなっているが、精神障害者へのホームヘルプでの最大の問題は、相談支援専門員、ホームヘルパー、事業所関係者それぞれが孤立していることである。これは、障害者福祉全般に蔓延している事態である。

問題を抱え込まないように共有し合える関係をつくり出すには、それぞれの専門性を理解する以

外にはない。特に、差別・偏見が根強い精神障害者に対するホームヘルプには、障害特性の理解や精神障害者の置かれている状況を把握するためのヘルパー研修は必須である。直接関わるヘルパーに精神障害者の抱える苦手さや生きにくさについて知ってもらうことこそ、継続的な援助関係をつくりだす基盤になると考える。

そこで、当研究会としては、本事業報告書をテキストとして活用した研修会を開催するとともに、「精神障害者に対するホームヘルパー意識調査」を実施し、2002 年に実施した意識調査と比較検討する。その結果を踏まえて、精神障害者に対する地域生活支援のあり方について、更に検討を進めていく。